

佛教大学一般入試現代文対策講座

○佛教大学の現代文について（傾向と分析）

2019年度入試出題出典

【評論】

二月一日 山田真茂留 『(普通)という希望』

二月二日 岩井克人・前田裕之 『経済学の宇宙』

二月三日 外山滋比古 『もの見方 思考の実技』

【小説】

二月一日 森浩美 『最後のお便り』

二月二日 過去問集に記載なし

二月三日 沢木耕太郎 『無名』

【対策について】

☆ 試験直前の時期に何を意識すべきか

(評論)

「漢字語句系問題」

本学過去問とセンター試験過去問で最後の仕上げを

「語句・文章挿入系問題」

接続詞はその働きに注目

語句挿入は、選択肢間の意味の違いを明確に

脱文補充は文章の意味のつながりを意識

「文章内容系問題」

とにかくできるだけ早く『本文の着地点(主旨)』を読み取る

(小説)

「感情の連続を以下に読み取るか」

☆ 文章を読むスピード、主旨をつかむ精度を上げるためには

『入試問題を読むこと』が最善かつ催促の対処法！！

今回のライブ講義では、評論分を中心に解説します！

「文章を読み解く力とはいったい何か？」

現代文は『冒頭』に着目することが必須

論説文の設問の典型的な構造から入試問題を分析

※ 設問が成立するためには、ある一定の条件を満たさなければならない

☆『前提』 ↓ 『問題提起』 ↓ 『論証』 ↓ 『種明かし』

・『前提』がもつ意味合い

・そして『問題提起』が現れる

・『論証』はどのような問題に問われるのか

・『主張』はどのように『再確認』されるか

入試問題の設問は、ひとつの物語を効果的に表現する誘導である

過去問演習で考えてみよう

■ 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

私生活主義と一言で言っても、そこにはあくまでも自己を一義的に重視するものと、私生活領域での他者に焦点を当てたものの二つが存在するというものである。前者の場合には、自己の心情や感覚が最も大事なものと考えられるため、他者との間に関係が取り持たれる際にも、個我を基軸としたネットワークが構築されることになる。ポストモダン(注1)的な色合いが濃い表出的個人主義(注2)とは、まさにそのようなものにほかならない。

これに対して、他者に [X] 私生活主義の典型としては、いわゆるダン(注)カイの世代が中心になって誇示した古典的なマイホーム主義を挙げることができよう。そこでは、妻も夫も子どもたちも共同の家庭生活を築き、またそれを守るために、互いに多大な献身をなすことになる。それは当該家庭領域を超え出る [Y] を遮断する恐れがあるため、これまで多くの批判が加えられてきた。この種の問題——モダンな私生活主義がはらむ病理——は今日でも遍くシン(注)トウしているので、それに対して鋭い批判の矛先を向けるのは依然として重要な作業であり続けている。

I、表出的個人主義が(注)蔓延し、家庭内においてでさえ互いへの無関心が顕在化してきた [A] な状況から振り返れば、この古典的なマイホーム主義は(その良し悪しはともかくとして)ある種のノスタルジイの対象ともなっている。(中略)

そして興味深いことに、ここで(1)私生活主義のなかに見出された二つの様態の違いは、実は家族領域だけでなく、およそあらゆる集団・組織・制度に一般的にうかがわれるきわめて重要な区別にはかならない。集団主義と言う場合、そこには「オレ様」の視点を中心としながら当該の集団を重視するものと、他者の(注)カンアンや他者への献身を基盤に(注)据えることで当該の集団を大切にすものとの二種があるということである。前者の場合は、まなざしがひたすら自己の内側へと向かってしまうため、他者への志向が醸成する可能性は非常に低く、 [II] それがあったとしても、社会的な拡(注)がりをなかなか獲得しえない。(i) これに対して後者の場合は、もともと他者の存在に一義的な重要性が置かれているため、集合性の枠がうまく解除されさえすれば、

[B] な態度が特定の集団の範囲を超えて広く拡がっていく可能性が秘められている。(ii)

社会性や公共性の大切さがいくら**(b)** 謳うたわれても、それを説く人自身が自らを社会状況の中心に置くような態度を取っているかぎり、その言葉はどこかうさんくさく聞こえるだろう。(iii)そしてこれとは対照的に、たとえ現状では私生活主義の枠内であろうとも、**個我の外側にあるものを尊重する態度を失わない**かぎり、その志向がいつしかより大きな社会へと拡がっていく可能性を、誰も否定はできない。大事なのはやはり、**個我の内部にばかり関心が集中してしまふ表出的個人主義の**(4)**隘路**を何とか抜け出ることであろう。(iv)

ファッション関係のことが**演習(注3)**の場で問題になるたびに、担当教員として言うことがある。「かつて、例えば一九八〇年代初めくらいまでだったら、容姿というのはほぼ骨相的に判断されていた。そのためそれを誇らしく見せつける人というのは限られた比率にとどまっていたわけだが、しかしいまでは誰もが外見にこだわり、それを誇示することができる。化粧・髪形・服装・エステ・整形などで容姿をどうとでも変えられる時代になったから。誰でも外見をうまく取り繕え、見栄えよく見せられるようになったというのは、とても幸せなことにはちがいない」

概略このようなことを言うと、**(2)** 不思議そうな顔をする学生が少なくない。それは、外見で勝負せよという規範的要請が強まっているのは耐え難いということなのかもしれないし、またそれで競争するのはつらいということなのかもしれない。しかしそれだけでなく、外見をひけらかす自己陶醉的な態度が意味世界の維持にとっていかに不毛なことかを、彼ら自身が薄々感づいているというところもあるだろう。

ファッション・痩身・健康などといった身体的な自己へのこだわりだけでなく、自分らしさ、本当の自分などといった精神的な(というよりは実のところ心理的な)自己への執着もまた、関心を自分の内側にだけ閉じ込めてしまう。これでは、結局のところ**個我を超える視点の取り込みが不可能なため、大きな人間的飛翔が見込めない**というのは当然のことと言えよう。表出的個人主義ないしナルシズム的な態度ばかりが顕在化することは、社会性・公共性の観点から望ましくないというの**はもちろんのこと、(3) 個人的な意味世界の充実という点からしても大きな問題をはらんでいるのである。**

表出的個人主義やナルシズムが今日的な状況のなかで高度に制度化されてしまえば、人は好むと好まざるとにかかわらず、また意識的にであれ無意識的

にであれ、内向きの視線を持たざるをえなくなる。これは大問題だ。ただしここで注意しておかなければならないのは、「制度化」というプロセス自体がいけないわけではない、という点である。個人的達成や自己責任ばかりが強調されているような状況では、他者への配慮を制度化することが重要になってくるし、私的な感興ばかりが過剰に重視される時代にあっては、社会的な含みのある感動を制度化する試みが大きな成果を生むことになるかもしれない。重要なのは制度化の全てを忌み嫌うのではなく、現存の制度の良し悪しを細密に見極めながら、より良い制度や制度化を求めて努力していくことであろう。

Ⅲ、ここで受動性ということについて少し考えてみよう。パッション (passion) という言葉は「情熱」とともに「受動」をも意味する。人が何かに強い(元)シヨウゲキを受け、大きな感動を覚えるということ、それは一方でその人個人の能動的な心身のはたらきでありながら、他方で外的事象に対して(否応もなく)受動的な反応を示すということでもある。日常性と非日常性の珍妙な(掛)ナれ合いのもと、自我を中心とする形で中途半端な感動が制度化・商業化され、諸個人がそれに受動的に従っているというのが問題だというのは、既に見てきたとおりだ。しかし、対象からの刺激に対する受け身的な反応というものが感動体験の□Cな要素として存在する以上、このような受動性とその制度化を全否定してしまうわけにはいかないだろう。対象との間に有意な距離が保たれるからこそ、人はそのすこぶみに圧倒され——つまりはある種受け身的な姿勢を取りながら——、大きな感動を覚えることができるにちがいない。

(4) 中学二年の生徒が書いた作文に、次のような内容のものがある。彼女は、難病と闘う少女を主人公としたテレビドラマに感動し、そこに登場した無理解な同級生たちに腹を立てていた。しかし、考えてみれば自分の周りにも様々な障害に苦しむ人たちがいる。にもかかわらず自分は、テレビでの同級生たちと同じように、その人たちに優しくしてあげられていない。それを反省した彼女は、障害者たちと交流を持った結果、彼らからとびっきりの笑顔をもらうことになった。

この作文には幾重もの深い自己省察が込められている。単純にテレビドラマに感動したというのではなく、それと照らし合わせれば自分自身が批判の対象となるという反省、そして実際になかなか障害者と自然に接することのできな

い自分へのもどかしさ、さらにはそうした自分に対してでさえ温かく接してくれた障害者やその親たちの姿勢への感動と感謝。これらいずれに關しても、彼女と様々な出来事との間には有意な距離が看取される。彼女は、対象との間の埋め難い距離に打たれたからこそ、自らの思考と行動を變容させることができたのである。

(山田真茂留「へ普通」という希望」 出題の都合上、一部省略した箇所がある)

(注1) ポストモダン——近代主義的傾向を否定し、近代を超えようとする芸術運動や思想の潮流。

(注2) 表出的個人主義——筆者はこれより前の部分で、「表出的個人主義」を「私的な感性やライフスタイルを重視するタイプの個人主義」と説明している。

(注3) 演習——大学の授業形式の一つ。学生に研究発表を行わせたり、討議を行ったりするもの。ゼミナール。セミナー。

問一 傍線部(ア)・(イ)の漢字の読みとして最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

- (ア) 据える ① かまえる ② とらえる ③ こらえる ④ そえる ⑤ すえる
- (イ) 隘路 ① きろ ② あいろ ③ えきろ ④ やくろ ⑤ きょうろ

問二 二重傍線部(あ)～(お)と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

- (あ) ダンカイ ① 僧の厳しいカイリツ ② 胃のカイヨウが治る ③ カイドウ沿いの店
④ カイショで丁寧を書く ⑤ カイジョウになった根や茎
- (い) シントウ ① 紙でできたエントウ ② アイトウの意を表す
③ 役所で土地をトウキする ④ トウメイな液体 ⑤ 現実からトウヒする
⑤ カンアン
- (う) カンアン ① カンソな手続き ② いたずらをカンベンする
③ カンキヤクし得ない問題 ④ 人工カンミ料
⑤ カンニンできない非礼
- (え) ショウゲキ ① デパートのショウガイ担当 ② きらびやかなショウゾク
③ 外国とのセッシュウ ④ ソショウ問題になる
⑤ オリンピックハッシュョウの地
- (お) ナレ合い ① 新しい環境にジュンチする ② 市内をジュンカンするバス
③ 条約にヒジュンする ④ 主君を追ってジュンシする

⑤ 聖地ジュンレイの旅

問三 傍線部(a)～(c)の各語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 蔓延し

- ① 当然の権利のように主張し
- ② 意味もなく受け入れられ
- ③ 勢いを増しながらはびこり
- ④ 大きな顔をして居すわり
- ⑤ 長い間もてはやされ続け

(b) 謳われても

- ① 面白おかしく伝えられても
- ② 大きな声で盛んに言われても
- ③ いつ終わるともなく議論されても
- ④ 公明正大に説かれても
- ⑤ 大まじめに扱われても

(c) 否応もなく

- ① 反発もできないまま
- ② 何も言い訳せずに
- ③ 無理やり強制的に
- ④ それしかないように
- ⑤ 選択の結果として

問四 空欄 I Ⅱ Ⅲ に入る最も適当な語を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。一つの番号は一回しか使えない。

- ① もしくは
- ② さて
- ③ それだから
- ④ しかしながら
- ⑤ たとえ

問五 空欄 A Ⅰ C に入る最も適当な語を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

① 今日的 ② 画期的 ③ 本質的 ④ 利他的 ⑤ 抽象的

問六 空欄 X Ⅰ Y に入る最も適当な表現を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

- X ① 照準した
- ② 依存した
- ③ 統一した
- ④ 言及した
- ⑤ 賛同した

- Y ① 意欲的志向
- ② 現実的欲求
- ③ 逸脱的嗜好
- ④ 社会的視線
- ⑤ 創造的精神

問七 本文から次の文が脱落させてある。元の位置は (i) ～ (iv) のうちどこか。次の①～④の中から一つ選べ。

その人自らが他者を大切にせず、社会的な諸事象に敬意・畏敬を払っていなければ、社会性や公共性を説く主張は空虚なものにとどまってしまっているのである。

① (i) ② (ii) ③ (iii) ④ (iv)

問八 傍線部(1)「私生活主義のなかに見出された二つの様態の違い」とあるが、筆者がこれに着目するのはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 古典的なマイホーム主義が批判されるのは間違いであり、そこで果たされてきた多大な献身は、今後の社会のあり方を検討するうえでも指針となり得るものだから。

- ② 自己を一義的に重視する態度と、他者への配慮を伴った態度の違いは、家族領域を超えて広く社会的に通用する区別であり、そこに考慮すべき問題があるから。
- ③ 私生活主義的な考え方は、あらゆる集団・組織・制度において存在しており、私たちの他者への配慮や献身に対する軽視の原因ともなっているものであるから。
- ④ 表出的個人主義と他者に焦点を当てた私生活主義との様態の差異は、きわめて重要な区別でありながら、集団主義においては見過ごされがちであることが危惧されるから。

問九 傍線部(2)「不思議そうな顔をする学生」とあるが、学生が「不思議そうな顔をする」のはなぜだと筆者は考えているか。その理由の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 外見を取り繕ったり、見栄えを良くしたりすることが自由に行うことは幸せなことだと若者に向かって言うこと自体が、学生たちには陳腐な言説であるとは思えないから。
- ② 外見を取り繕ったり、見栄えを良くしたりすることが、筆者が若い頃にはどのようなことであつたかということ想像することができないので、なぜ幸せなことなのか理解できないから。
- ③ 外見を取り繕ったり、見栄えを良くしたりすることが何の気兼ねもなくできることは、学生たちにとって何ら特別なことではなく、当たり前のこととして受け入れていることだから。
- ④ 外見を取り繕ったり、見栄えを良くしたりすることが手軽にできることは、学生たちにとって嬉しいことでもなく、自身に対しても意味のあることでもないのではないかと感じているから。

問十 傍線部(3)「個人的な意味世界の充実という点からしても大きな問題をはらんでいる」とあるが、そのように言うのはなぜか。その理由の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 外見をひけらかし、自己の存在を過大評価する態度は、社会的に建設的な態度ではあり得ないだけでなく、社会的な存在としての人間の否定につながる可能性があるから。
- ② 表出的個人主義やナルシズムが制度化・商業化されることが外圧となって、個人的な意味世界が抑圧され、否定的にとらえられることで、社会が空洞化してしまう可能性があるから。
- ③ 自己の外見や身体的なことへの執着に限らず、内面的な自己への執着もまた、自己を超え出るものへの関心を欠くことになり、自己自身を矮小な存在にしてしまう可能性があるから。
- ④ 個人的な意味世界は、もともと外部とのつながりをもちながら形成されてきたものなので、表出的個人主義やナルシズム的な態度は、本来的な意味で間違いである可能性があるから。

問十一 傍線部(4)「中学二年の生徒が書いた作文」の例はどのようなことの例として挙げられているのか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 受動性が強ければ強いほど自分の無力さの自覚につながり、対象に対する思いが強まること。
- ② 対象を客観的にとらえ、自分について冷静に考えたことが、意味のある行動につながったこと。
- ③ 対象に対して距離感を持たざるを得ないことが、大きな感動を生じさせていること。
- ④ 何気ない日常の映像でも、問題意識のあり方によって感動してしまうものであること。

問十二 本文の内容と最もよく合致するものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ① 表出的個人主義は私生活主義のうちにあるものであるが、古典的なマイホーム主義は表出的個人主義の問題点を克服したものとして現れている。
- ② 私的な感興が重視される時代にあっては、他者への配慮の制度化などを検討しなければ、表出的個人主義がもたらす問題は、大きなものになりかねない。
- ③ 中途半端な感動の制度化や商業化は、個人の受動的な反応を招くだけなので、感動を制度化することには問題があり、否定されるべきである。
- ④ 自己のアイデンティティを探し求めることは、精神的な営みのようでありながら、社会性を欠いているという点で不毛な営みであると言わざるを得ない。